

〈PR〉

カラダの 相談室



梅田脳・脊髄・神経
クリニック(大阪)

町田脳神経外科(東京)

理事長 田辺 英紀さん

第3回



腰の痛み、足のしびれ、 歩きにくさ

腰や足の痛みの原因の多くは加齢による骨などの経年変化で、神経が刺激・圧迫されるためです。人生100年時代。生活や趣味などに支障をきたすようになれば低侵襲の神経外科手術も治療の選択肢の一つで、脳神経外科の脊髄脊椎の専門医に相談することです。

生活に支障があれば手術も 人生100年時代は楽しく

Q 腰痛や足のしびれ、痛み、歩きにくさがある人は多いのでしょか。原因や治療について教えてください。

A 腰痛は、令和4年国民生活基礎調査によりますと、男女ともトップとなる位に多い病気です。多くは疾病としての原因が特に見当たらない非特異性腰痛といわれるものですが、時に内臓の病気が隠れていたりします。しかし疾病としての原因の多くは、頸椎の病気と同じく、加齢による背骨の経年変化です。脊柱管という管の中を脊髄が通っていますが、脊椎が年とともに変性し、脊髄から出る神経が骨棘(こぎょく=骨のどげ)、肥厚した靱帯(じんたい)やヘルニアによって圧迫・刺激され、腰や足に痛み・しびれを起こしていきます。このような症状を起こす主な疾患は腰部脊柱管狭窄症(ようぶせきちゅうかんきょうさくしよ)や腰椎椎間板(ようついっかんばん)ヘルニアです。

その中で腰部脊柱管狭窄症は分かりにくい病気です。じっとしているときには症状は出ませんが、少し長く歩くと足がしびれてきたり、腰が重くなってきたり、前かがみになったりしてきます。そして、数分間、休むとまた元に戻って歩けるようになります(間欠性跛行)かんげつせいはこう。そのため、我慢してお付き合っている人が結構多くおられます。

まず、治療には症状を引き起こす神経の障害箇所を特定、診断することが必要です。当院クリニックでは、最先端機器で高解像度を持つ3・0テスラMRIで病巣を突き止め、適切な薬剤治療が行われているかどうかを判断しています。



たなへ・ひでき 1984年、大阪医科大学卒業。医学博士。北野病院などで脳神経外科手術の研究を重ね、城山病院院長や田辺脳神経外科病院院長を歴任。年間600件以上の脳・脊髄手術を行う。2020年より梅田脳・脊髄・神経クリニックと町田脳神経外科(東京)の理事長を兼任。24年、日本脳神経減圧術学会会長。

もちろん、すぐに手術ではありません。外科治療で治る病気であっても、まず経過観察、保存的治療です。ただ、保存的治療で、改善が見られず、生活や趣味などに支障をきたせば、患者さんとよく話し、手術と言う選択肢があることを伝えていきます。

Q どのような手術でしょうか。

A 腰部脊柱管狭窄症の場合は、腰の中央を3センチ程度切開します。そして背骨の中央から500円玉大のスペースを確保し、坐骨(ざこ)神経の束(馬尾神経)や神経根を圧迫している骨や靱帯を取り除いて神経への除圧を行います。

腰椎椎間板ヘルニアの場合は、径が1円玉の内視鏡用手術チューブを腰の筋肉に挿入して顕微鏡下でその筒の中からヘルニアを1時間程度で取り出します。

腰椎すべり症が合併している場合は時に小さく固定を行います。基本的には痛みや麻痺が生じている神経の除圧をピンポイントで行う低侵襲な手術です。狭窄症やヘルニアの手術ともに約1時間半の手術で、当日には座位食事ができ、翌日には歩行可能です。そして術3日後に退院する患者さんもいらっしゃいます。

高齢だからといって、手術を怖がる必要はありません。今は90歳を超える人も心臓手術をする時代です。脊椎、脊髄の疾患は低侵襲の手術で症状が消失、改善でき、生活の質を保てる趣味も楽しめます。今の痛みやしびれで我慢している人は、脳神経外科の脊髄脊椎の専門医に相談し、痛みやしびれなどから解放され、人生100年時代を楽しんでもらいたいと思います。

〈企画・制作〉産経新聞社メディアビジネス局

☆梅田脳・脊髄・神経クリニック 大阪市北区太融寺町3の24 日本生命第二ビル1階 TEL06・6312・0011
☆町田脳神経外科 東京都町田市根岸町1009の4 TEL042・798・7337